

三原市民と市長の「みらいトーク」(第11回)実施結果

令和4年3月25日

目的 市長が、市民との対話を通じて、市政やまちづくりに対する積極的な意見や提案を広く聴き、今後の市営運営に活かすとともに、市民の市政への参画機会の拡充を図ること。

日時 令和4年3月25日(金)18時30分～19時30分

場所 古民家カフェ&宿 むすび 三原市須波1-2-19

出席者 転入者5名

(転入して間もない方へのアンケートの中で本行事に参加の意向を示した方)

内容 三原に住んで感じたことについて市長と意見交換

1 三原市に住んでみて良かったところ等について

【参加者から】

- ・自然にあふれて、住みやすい。
- ・市内は、スーパー等もあり、住むところは海も見えるのでとてもよい。
- ・元々、市に住んでいる人からは、須波は中心部から少し遠いイメージだと聞くが、移住した側からすれば、車での移動により苦になる距離ではないと思う。海の見える風景もとても良く、ポテンシャルがある。
- ・現在、須波に住んでおり、住まい探しでは空き家も検討したが賃貸を選んだ。
- ・瀬戸内海の特徴は内海なので波が静かで大きな湖みたいだということと、目の前に島々が見えており、多島美がとても魅力的に感じられる。
- ・三原市公式LINEはとても便利。ゴミの収集日を教えてもらえるのは嬉しい。また、イベントなどの情報発信も近年盛んになっていると感じる。

【市長から】

- ・須波エリアは、海・山があり、魅力的な場所だと改めて感じる事ができた。また、須波地区には空き家が多いこともあり、今後の対策の必要性を感じている。
- ・三原市はFacebook, Twitter, インスタグラムを活用し情報発信を行っている。市政情報やイベント情報など、さまざまな情報を発信しているのでご活用いただきたい。

2 子育てについて

【参加者から】

- ・保育の仕事をして9年してきて、楽しく子育てできると思っていたが、意外と三原市はそうでもない気がする。
- ・市役所でもらった当時のガイドに書いてある病院が閉まっていたり(現在は更新済)、産科での診察を予約しても2時間待つこともあった。他の病院への転院も考えたが断られ辛い思いをした。

- ・出産後もコロナで行くところがなく、家で子どもと二人きりとなることが多い。夫の帰りも遅く、知り合いもいないので、市の子育て世代包括支援センターに毎日電話をしていた。話は聞いてはもらえるが、知り合い等を増やせず子育てに苦しんだ。
- ・子育て世代の人や地域の人など、いろいろな人と知り合える機会が必要であると感じる。
- ・若い人が積極的に集まれるような楽しいことをしているところがあればよいと思う。
- ・新生児訪問と併せて、母親の心と体の状態もきちんとみるのが大事ではないか。

【市長から】

- ・子どもや子育て世代が集まる場として、駅前に児童館があるので、ぜひご活用いただきたい。
- ・来年度から保健師の訪問の回数を増やす予定としている。子育て中の親同士のつながりや、子どもや母親のケアを行うことを大切にしたい。

3 まちづくりについて

【参加者から】

- ・カフェのような場所が少ない。そのような場所に人が集まれば、子育て世代などの出会いも増えていくのではないか。
- ・生活に必要なものがコンパクト集まっている特徴を活かすべき。
- ・海沿いの景色がとてもよいのでそれを活かして、お母さんたちが集まり、もっと仲良くなれたりする場所があるとよい。
- ・三原という名前を全国の方に認知してもらおう動きがほしい。

【市長から】

- ・カフェのような場所は市内に少ないと感じている。駅前などにも集まれる場所があればよい。そのような所が子育て世代をはじめ様々な世代が出会い、つながる場に発展していけば理想的だと思う。

●困ったこと・不安なこと

【参加者から】

- ・瀬戸内海は島で囲まれているが、それでも津波は起きるのか知りたい。
- ・自分たちもできる限り、ご近所と親密にしようとは思っているが、近所付き合いで分からないことが多い。
- ・子どもがケガをしたとき、行きつけの病院がなかったこともあり、診察までに時間がかかった。かかりつけの病院をもつことが必要である。
- ・三原駅の近辺に喫煙スペースがあるので、分煙の対応などを希望する。
- ・自宅の前に大きな道路が通っているが、子どもが自転車で通行するときに危険を感じるので、ガードレールを付ける等検討してほしい。

【市長から】

- ・南海トラフ地震が発生した場合は、三原市でも津波の被害が想定されている。「FM みはら」を聞くことができるラジオを無料配布している。災害時には避難情報などを聞くことができるので、災害への備えに役立ててほしい。
- ・ガードレールの設置については、管理者に対して要望を続けていきたい。